

カトリック 仙台教区報

2015年11月1日

No.226

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014

仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL <http://sendai.catholic.jp/>

いつくしみの特別聖年

2015・12・8

～2016・11・20

イエス・キリストは、御父のいつくしみのみ顔です。キリスト者の信仰の神秘は、ひと言でいえばこの表現に尽きる気がします。いつくしみは生きたもの、見えるものとなり、ナザレのイエスのうちに頂点に達しました。「あわれみ豊かな」(エフェソ2・4)御父は、モーセにご自分の名を「あわれみ深く恵みに富む神、忍耐強く、いつくしみとまことに満ちる者」(出エジプト34・6)と明かされてからは、やめることなく、さまざまな形で、歴史の中で数々の機会に、その神秘を知らせてくださいました。(後略)

(特別聖年大勅書1番)

ミサの中で、第1朗読はベトナム

「近年、グローバルゼーションという言葉がよく聞かれるが、教会は、その成り立ちからグローバルゼーションそのものだった。そして、その精神は2千年後の現在に至るまで、いささかも変わっていない」と、説教の冒頭で平賀司教はこう述べられた。



インターナショナル・ミサ 世界難民移住移動者の日

9月27日(日)、世界難民移住移動者の日に、多くの外国籍信徒が集い、元寺小路教会でインターナショナル・ミサが行われた。

「近年、グローバルゼーションという言葉がよく聞かれるが、教会は、その成り立ちからグローバルゼーションそのものだった。そして、その精神は2千年後の現在に至るまで、いささかも変わっていない」と、説教の冒頭で平賀司教はこう述べられた。

語、第2朗読はスペイン語、共同祈願は5カ国語で行われた。さらに20名の子ど

り、司教・司祭を中心にして手をつなぎ「主の祈り」を唄って、世界の平和を願った。

また、子どもたちが手をつないで、花束となつて大きな地球儀を囲むなど、華々しさの中にもいつくしみに満ちたミサとなった。

世界に目を向けると、各地で厳しい現実が立ちふさがっている。中東の長引く戦乱の中で大勢の難民がヨーロッパを目指して過酷な旅を強いられ、命を落とす人、特に幼い子どもまで巻き込まれているという悲劇が後を絶たない。

日本カトリック難民移住移動者委員会委員長松浦悟郎司教は、メッセージの中で教皇フランシスコが、北アフリカからボートでヨーロッパに押し寄せる難民についての支援を呼びかけたこと、日本では、昨年度難民の申請が過去最高の5000人を超えたが、認定を受けたのがわずか11人しかないことに触れながら、「全ての人の母である国境のない教会は、受容と連帯の文化を世界中に広めます。その文化の中では、役に立たない人、使い捨てられる人はいません」との教皇の呼びかけに応え、私たちは、だれもが大事にされ、安心して暮らせる「国境を越えた世界」になるように祈り、行動しましょうと呼びかけた。

生命の泉

9月15日教皇様が訪米した。その歓迎ぶりをテレビでも新聞もトップで伝えた。ニューヨークで旗を持って出迎えたのはメキシコをはじめ南米各国からやって来て、貧しい生活ながら街の3Kを支えている人々だ▼その熱狂ぶりはすごかったが教皇様の屈託のない優しさにあふれた表情に癒された思いがした▼時を同じくして中国の習主席も国賓としてバンクーバーのボーイング航空機メーカーの飛行場に降り立った。737型機を300機購入するという爆買いをして米国民の関心をさらったが影は限定的であつた▼街角で教皇様を出迎えたのは爆買いの恩恵などの埒外の人々だった▼教皇様のこのようなお顔にこれからの教会は変わらなければいけないとせつに思った▼かつて世界中どこにもあるのは「コローラとカトリック教会だ」などと揶揄されたこともあつたが、今は教会離れの時代だ▼求道者は激減し、召命も減って教役者ばかりか信徒も管理的仕事に駆り出されている。とてもゆとりある司牧者の顔などしてられない▼これまでもクリスチャンというイメージは真面目でも笑いを忘れた親しみを持ってない人たちと思われていた。自分の家庭においてさえ一人だけの信者で普段は隠れクリスチャンとしての日常だ▼イエス様は、神さまを愛すること、隣人を愛することは一つだと言われた▼神様に近づく道は罪を犯さないように細心の注意を払って一人救われることにある訳ではなく、私たちの周りのたくさんの人々の存在に気付くことであり、その人々との連帯感にこそ「地を受け継ぐ」可能性が生まれるのではないか。(守)

仙台教区宣教司牧評議会定例会 教区研修会・地区制の振り返りなど

思います。

教皇フランシス

コは12月8日無原

罪の聖母から来年の11月20日まで

あるキリストまでを「いつくしみの

特別聖年」と定め、これを公布する

大勅書を発表されました。公布の大

勅書「イエス・キリスト、父のいつ

くしみのみ顔」を、ぜひよく読んで

ください。この聖年を通して喜びを

もって生きる仙台教区としていき

たいものです。

東日本大震災で教会は変わりま

した。教会の中にとどまっていな

で、外に出て人々の中に入っていく

ました。これからも、喜びを持って

続けて欲しいと思います。

今日は、私たちの教会が進む道を
知恵を出し合いながら考えていき
たいと思います」と、挨拶した。
小野寺師を議長に選出し、議題に
入った。

第1議案 仙台教区研修会開催の 件について

テーマを「家庭について」——ど
もの信仰教育とし、キリスト者が
信仰を証しする場として、最も小
さく、最も大切な場である家庭に着
目し、信仰を次の世代に伝えること
を学ぶ場にした。講師は未定であ
るが、小さな教会で子どもの信仰教
育に携わっている人をお願いした
と考えている、との提案があった。

これについて、各委員
からの発言があったが、
特に信徒数の少ない教会
子どもが一人もいない教会
会もあり、「子どもの信仰
教育」を取り上げて研修
修会に興味を持って参加
する人は少ないのではな
いかという意見が多かつ
た。意見交換の後、次の
ように決議された。

◎次回の教区研修会は、
地区ごとに開催する。

◎「家庭における私の信
仰をテーマに、次の世代
に伝えることを副題とし、
次の世代については子ど
もたちに限定しない。

◎研修会の開催時期、開
催方法などは、地区ごと
に協議して進めること。

◎開催時期は、来年の宣教
司牧評定例会までとする。

第2議案 地区制化3年目を迎
えるにあたり、振り返りと展望の機
会を持つ件について

それぞれの地区で一律の進み方
ではないが、すでに振り返りと、今
後の歩みについて意見交換がなさ
れている。あえて、役員会から提案
された、集まりを開催するには及ば
ない。この提案を一旦役員会に戻す
ことを確認した。

第3議案 復興支援活動の今後
について

地区ごとに11月までにまとめて
報告することになった。

司教日程

11月・12月

11・1・9 聖ウルスラ学院英智

バチカン訪問

14・10 第4地区司教集会

17・11 スペルマン病院ミサ

17・11 司教評定例会・司教団役員会

21・11 宣教司牧評定役員会

22・11 第5地区堅信式(塩釜教会)

24・11 カリタス釜石理事會

26・11 部落差別人権委・定例会

27・11 全ベース会議

28・11 仙台教区サポーター会議

30・12 部落差別人権委・秋季大宿

12・4 子どもと女性の権利擁護

5・11 松木町教会黙想会

6・11 松木町教会(第7地区)堅信式

8・11 司教評定役員会・司教団役員会

9・10 司教のための

17・11 部落差別人権委・事務局会議

24・11 主の降誕(夜半ミサ)

25・11 主の降誕(日中ミサ)

(詳細は、各教会に配布した議事録
を参照してください)

【宣教司牧評議会 評議員】

教区本部 ◎平賀徹夫(教区長)

◎小野寺洋一(司教総代理)◎小松

史朗(教区事務局長)

司教代表 ◎ホセ・ゴンザレス

首藤正義 板垣勤

各地区連絡会信徒代表

1 金原誠(浪打) 2 佐々木誠

(十和田) 3 佐藤光(四ツ家) 4

佐々木英二(築館) 5 ◎上野隆

(西仙台) 6 新村信雄(八木山)

7 佐藤大(会津若松) 8 ◎川井田

元(白河) 修女連 ◎小原美智子

青郷登志子 ◎は役員

『奉献生活の年』そして

『いつくしみの特別聖年』へ

司教 平賀徹夫

今年2015年は第2バチカン公会議閉幕から50年の年ですが、この
節目にあたって、カトリック教会では世界でも日本でも、各地で「公
会議の〇〇文書発布50年を記念して」と銘打ったシンポジウムや講
演会等の催しが開かれています。小教区でも公文書の勉強会や輪読
会など行っているところもあるかと思いますが、あらためて信仰の
自覚を深められるように、なにかに参加したり個人的に読んだりで
きたら良いと思います。

フランシスコ教皇様は、昨年11月、全世界に向けた書簡「奉献生活
の年にあたって——すべての奉献生活者の皆さんへ」を發布して、
2014年11月30日(待降節第1主日)から2016年2月2日(主の奉献の
祝日)までの期間を「奉献生活の年」とします、と発表されました。
いま現在はその「奉献生活の年」の真っ最中であるわけです。「奉献
生活の年」といっても、当然ながら教皇様ご自身で、「奉献生活の年
は奉献生活者だけではなく教会全体に及ぶものです。…すべてのキ
リスト者にこのメッセージを送ります」とその書簡の中に記してい
ます(Ⅲ. 奉献生活の年の展望)。カトリック中央協議会のホームペ
ージでも読めます。

この「奉献生活の年」の目的に3つ挙げられています。1つ目は「感
謝をもって過去を見ること」。2つ目は「熱意をもって現在を生きる
ことへと向かうこと」。3は「希望をもって未来に向かうこと」。こ
のそれぞれについて思いを深めるためにぜひ書簡そのものをお読み
ください。仙台教区第3地区では10月12日、四ツ家教会を会場に、
このテーマで地区大会を行いましたが良い企画でした。

さて、この「奉献生活の年」にかぶさる形で、来月12月8日からは
「いつくしみの特別聖年」に入っていきます。教皇様はそれを発表
される大勅書の書き出しで「この書簡を読む皆さんに、恵みといつ
くしみ、そして平和があるように」と呼びかけておられます。信仰
を深めるために非常に味わい深い内容がつづられていますし、これ
も誰もがぜひ読まなければならないものだと思います。

これについて、各委員
からの発言があったが、
特に信徒数の少ない教会
子どもが一人もいない教会
会もあり、「子どもの信仰
教育」を取り上げて研修
修会に興味を持って参加
する人は少ないのではな
いかという意見が多かつ
た。意見交換の後、次の
ように決議された。

◎次回の教区研修会は、
地区ごとに開催する。
◎「家庭における私の信
仰をテーマに、次の世代
に伝えることを副題とし、
次の世代については子ど
もたちに限定しない。
◎研修会の開催時期、開
催方法などは、地区ごと
に協議して進めること。
◎開催時期は、来年の宣教
司牧評定例会までとする。
第2議案 地区制化3年目を迎
えるにあたり、振り返りと展望の機
会を持つ件について
それぞれの地区で一律の進み方
ではないが、すでに振り返りと、今
後の歩みについて意見交換がなさ
れている。あえて、役員会から提案
された、集まりを開催するには及ば
ない。この提案を一旦役員会に戻す
ことを確認した。
第3議案 復興支援活動の今後
について
地区ごとに11月までにまとめて
報告することになった。

地区だより

第1地区Ⅱ

第1地区は大きく青森地区(本町・浪打・松丘教会)と津軽地区(弘前・五所川原・黒石教会)に地理的に分かれており、行事もそれぞれ別々に行われてきました。地区制に移行してからぜひ合同で何かできないかという声が高まり、今年には青森地区で行ってきた野外ミサに津軽地区の三教会も含めた合同の野外ミサを実施しようと、2月21日に行われた第1地区代表者の集まりで決定しました。

第一回合同野外ミサに参加して

弘前教会 齋藤てい
6月21日(日)晴天のもと5教会(本町・浪打・弘前・五所川原・黒石教会)の第1回合同野外ミサがおこなわれました。(参加者総数180名)

これを機会に毎年行事として実施されることになりました。今回の場所は広大な大自然の恵みに包まれている藤ホームでしたがとても



野外ミサ

清楚で清潔感に満ちていました。温かさのある雰囲気



ミサは首藤神父司式で厳粛に行われました。神父様の信徒に対するやさしさといったわりが印象的に残りました。

ミサの後、情報交換となり各教会の委員長からの発表がありました。それぞれ内容には違いがありましたが話術のうまさ、信徒の皆さんからは笑いあり、苦笑あり、大拍手ありで一つのまにか信頼と愛に結ばれたひとつの大きな輪になつていました。それは、まるで神様が私たちを抱きしめてくれているようで、私はほんわかという気分になっていました。

昼食時、本町教会名物の「ぶた汁」がふるまわれましたが「なるほど」と、うなずけるほどおいしく、2、3杯おかわりをする方もいるほどでした。来年も「お願いできるかしら」と、あつかましくも思っていました。

昼食後は、あつという間に交流

の場に早変わり。自然の恵みを満喫するかのようには散策や、芝生に座つて心地よいそよ風に身をゆだねながらの談笑・・・と各自それぞれに自然のなかで気持ちよさそうにリフレッシュ。この恵みに幸せいつぱいの笑顔があらちこちらでみられうれしくなりました。

楽しい時間もあつという間にすぎ私たちは別れを惜しみつつ来年の再開を約束しました。有意義で大自然を満喫できた第一回合同野外ミサは大成功だと感じました。

この成功のかげには藤ホームの職員の方々や信徒の皆様のご協力があったからこそ感謝申し上げます。

第2地区Ⅱ

第2地区では地区制度発足当初に一度、三沢教会に地区内の各小教会の信徒代表と担当司祭が集まり、規約や活動について相談しましたが、決定までには至りませんでした。司祭・修道会・信徒等による組織的な地区運営は未だ出来ておりませんが、担当司祭

の方々は、地区内の小教会の御ミサの司式者を月毎に決めて、それを一覧表にして掲示し、信徒に周知してください。

地区制度に移行して一番大きく変わったのは、各



塩町教会



鮫町教会



二戸教会



大湊教会



野辺地教会



三沢教会



十和田教会

小教区間の交流が活発になったことがあげられます。他の小教区の御ミサにあずかるという交流。これは地区という仲間意識ができたことに加え、担当司祭が複数の小教区を担当し、その司祭を通して他の小教区が身近になったこと。御ミサにあずかりたいとの信者さんの強い思いもあると思います。他の小教区の御ミサへの参加人員・回数に多い少ないはありませんが、私の聞いたところでは、現在、大湊教会 ⇄ 三沢教会 ⇄ 野辺地教会 ⇄ 大湊教会、十和田教会 ⇄ 八戸塩町教会 ⇄ 鮫町教会、二戸教会 ⇄ 鮫町教会等があります。野辺地教会には第一地区の浪打教会も来て下さると野辺地教会の信者さんは大変感謝しております。

それ以外の交流として、今年の待降節の黙想会の指導司祭は、三沢在住の司祭が十和田教会、十和田教会の在住の司祭が大湊・三沢両教会を指導。八戸塩町教会と鮫町教会は合同で実施の予定です。また、鮫町教会では久慈教会と十和田教会を巡礼訪問し交流を深めました。八戸塩町教会では第2主日の御ミサはフィリピン人の方々を中心に英語による御ミサを行っています。

これからの地区内の様々な交流で相互理解が深まり、司祭・修道会・信徒等が、それぞれの足りない所を補完しあい、将来的には地区内のカトリックの教育機関、医療・福祉機関も含めて協力しあえる制度になればと願っております。(鮫町教会 前田 博)

仙台教区教会現勢 (2014年1月1日～2014年12月31日) 単位 人

I【概況】

人口	6,870,902	人	信者数	10,203	人口比率	0.148 %
面積	45,986	km ²	求道者数	59		

II【在籍信徒数】(聖職者・修道者・神学生を除く)

	男	女	計	青森	岩手	宮城	福島
	3,520	6,412	9,932	1,961	1,612	4,047	2,312
前年比	-48	-117	-165				

III【聖職者・修道者・神学生数】

	総数	司教	教区司祭	宣教会司祭	修道会司祭	大神学生	修道士	修道女	修練者等
	271	1	19	10	6	1	2	222	10
前年比	-16								

ケバック会 4 神言会 2

ベトレム会 1 ドミニコ会 4

グアダルペ会 3

淳心会 2

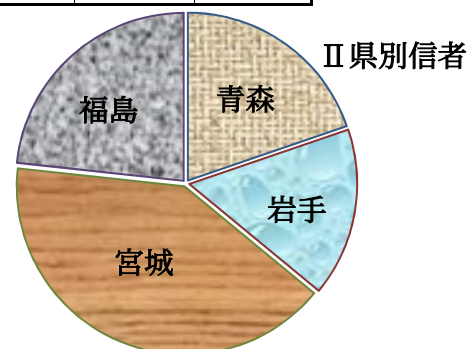
*震災で他教区から派遣されている司祭は含まれていない。

IV【信者数】信徒数+聖職者・修道者・神学生

	男	女	計	青森	岩手	宮城	福島	教区外
	3,559	6,644	10,203	2,018	1,653	4,171	2,358	3
前年比			-181					

V【移動】

	男	女	計
転入			
教区内移動	8	20	28
教区外移動	26	22	48
その他の理由	5	5	10
転出			
教区内移動	8	21	29
教区外移動	31	33	64
その他の理由	3	4	7
死亡	65	75	140



VI【秘跡】(洗礼・堅信・結婚)

	男	女	計
洗礼			
幼児	15	18	33
成人	40	48	88
計	55	66	121
堅信	31	54	85
結婚			
信徒同士			0
信徒・他キリスト者			1
信徒・他宗教者			15
他宗教者			13

VII【宗教教育活動】

	男	女	計
教会学校(幼・小)	80	89	169
教会学校(中学生)	24	39	63
要理・聖書研究	19	20	39

VIII【医療事業】

病院	施設数	1
	ベット数	140
	教職員数	186
診療所	設置数	1
	利用者数	3,500
	教職員数	3

IX【社会福祉事業】

保育所	設置数	10	その他の老人福祉	設置数	10
	利用者数	*204.48		利用者数	*15.987
	教職員数	194		教職員数	121
児童福祉施設	設置数	7	その他の社会福祉	設置数	2
	利用者数	*18.958		利用者数	*8.851
	教職員数	213		教職員数	48
老人ホーム	設置数	6			
	利用者数	371			
	教職員数	256			

*は延べ人数

X【教育事業】

幼稚園	設置数	47
	園児	4,785
	教職員	593
小学校	設置数	7
	児童	1,476
	教職員	169
中学校	設置数	9
	生徒	1,212
	教職員	241
高等学校	設置数	9
	生徒	3,936
	教職員	564
短期大学	設置数	2
	学生	497
	教職員	161
大学	設置数	1
	学生	1,085
	教職員	271

2014年の「仙台教区現勢」が発表になりました。

内容の一部を掲載しました。詳しくは、各教会に配布されたプリントをご覧ください。

残念なことに、信徒数は、減少傾向です。

仙台教区「新しい創造」第3期の取り組み

「希望の風フェスティバル2015」
Heart and 風から希望の風へ

宮代仮設最後の夏祭り

原発事故で避難指示区域になっている福島県浪江町の住民が暮らしている宮代仮設住宅に、松木町教会の信徒らでつくる「愛の支援グループ」が定期的に訪問し初めてから9月30日まで4年。「カリタス・ふれあい茶の湯ボランティア」も110回を数える。4月に宮代仮設の自治会が解散されたことから9月12日(土)にみんなに希望の風が吹くことを願いい、さらに全国からの支援に感謝をこめて「希望の風フェスティバル」が開催された。

秋晴れに恵まれたこと 東京ボランティアセンターの方々もあつて、仮設住宅内外 約30名、幸田和生司教(東京教区)の浪江町の方々約40名、平賀司教、エメ神父、トマ神父(第田園調布教会、雪ノ下教 7地区担当、など、約150人の方々が参加した。

ハンセン病問題と仙台教区

人権を考える委員会

松丘教会の歩み(1)

松丘教会の歩みは、カトリックの神山復生病院で受洗した山本謙太郎氏が1931(昭和6)年、青森の国立ハンセン病療養所松丘保養園に転入の後、浜町教会(現在の本町教会)に連絡し、主任司祭でカナダ・ドミニコ会のベルトラン・デルエン神父が布教したときに始まります。当時「らい病」と言われ世間から大変嫌われ、患者だけでなくその家族も差別される中、療養所に通い、病気に苦しむ患者に物心両面に亘り援助の手を差し

延べました。

幾らかの信者が増えつつあったとき、日米戦争が始まり、外国人司祭は敵性国人として強制送還されてしまいました。小野忠亮神父、児山六七男神父、平塚秀雄神父ら邦人司祭の働きで教会は守られましたが、キリスト教は敵性国の宗教という迫害もひどくなり布教は進みませんでした。

戦後1949(昭和24)年に青森県はカナダ・ケベック宣教会の担当となり、療養所にもフランシス・レフウベル神父らの積極的な布教活動が展開され、唯一生き残った信者大橋四郎氏の質朴な人徳もあり友人知己から洗礼を受ける人たちが現われ、大橋氏を初代会

盛り沢山のアトラクションの中でも、同住宅に住む高齢の方の民謡「新相馬節」の歌詞を浪江に言い換えて「浪江恋しいや懐かしや」と唄ったことが心に残る。フィナーレは、共に元気になるようにと仮設住民と練習を重ねてきた山形の「花笠踊り」で「マカシヨ、マカシヨ浪江町」の力強い輪と



花笠踊り

なった。エンディングソングには「ありがとう地球」の歌を選曲した。それは「地球に感謝したことがあったらどうか…人が汚したこの星を…必ずきれいにして返すから…」の歌詞に感動。

この日は、110回目のふれあい茶の湯イベントでもあり、笑顔と感動が晴天に届いたかのような一日であった。この4年間にたくさん学び気づかされたことがある。現在は復興住宅へ移られる方、仮設に残られる方、どちらにしても未だふる里に帰れない複雑な気持ちのユ一神父の尽力で伝道館が建設されました。

参考…滝田十和男「カトリック松丘教会の昔と今」、小野忠亮「青森県とカトリック」(御供 真人)

ユ一神父の尽力で伝道館が建設されました。

参考…滝田十和男「カトリック松丘教会の昔と今」、小野忠亮「青森県とカトリック」(御供 真人)

参考…滝田十和男「カトリック松丘教会の昔と今」、小野忠亮「青森県とカトリック」(御供 真人)

長とした「松丘カトリック愛徳会」が結成されました。定まった集会所を持たず、バラック寮舎の玄関の土間でミサを捧げ、洗面所で告解を聴くなど、集まる場所にも苦労している信者のために、1957(昭和32)年、ケベック宣教会は母国カナダに募金を呼びかけて待望のカトリック聖堂を建て、小林司教司式で献堂式が行われました。

信者もそれに応えて「レジオ・マリエ」(盲人信者の会)「フランシスコ第三会支部」を結成し布教活動に専念、一時は信者数62名にも及び、50坪近い聖堂内もミサの時は狭く感じる程の盛会ぶりに、1963(昭和38)年、二代会長米塚尚司氏の時に、主任司祭ボリ



カトリック松丘教会



フェスティバルに集まった人々



民謡を熱唱

「Heart (ハート) and (と) 風」

♪ 3・11からheartの風が吹く／凍り付いた heart にやさしい風が／みんなの heart に気づきの風が／ほほえみからホットなheartに／heart and 風から感謝に／heart and 風から希望へ／heart は見えないから信じ／風はつかめないから祈りへ／だからずっとずっとつながっていこう…

方々と共に歩んでいる。これからも共に歩んでいけることを願っている。松木キミ子

第39回日本カトリック正義と平和全国集会2015東京大会

『戦後70年の今こそ、地上に平和を―痛みを知る神とともに―』

カトリック正義と平和仙台協議会会長 木元 範子

9月21日～23日、東京教区主催、日本カトリック正義と平和協議会共催で全国集会が開催された。1週間前に安保法案関連法が成立した事もあり参加者は3日間で述べ2170人となった。私は日本カトリック

募った「福島訪問ツアー」2泊3日に日本からの参加者と共に約50名で飯館村や浪江の様子を視察し、原町教会での交流会にも参加した。日本カトリック正義と平和協議会会長の勝谷司教も同行された。



脱原発をアピールする仙台正平協

ク正義と平和協議会・平和のための脱核部会事務局として参加した。東京カテドラル関口教会をはじめ五つの会場で行われた。今回、韓国から「正義と平和委員会」のラザロ・ユ・フンシク司教(デジョン教区)をはじめ、韓国の脱原発の運動に関わる神父、シスター、信徒25名も参加し、代々木でのさよなら原発集会で登壇しアピールも行った。また大会後、平和のための脱核部会が

初日は東京カテドラルで開会式に引き続き、上智大学の中野晃一教授の「東アジアにおける平和と社会正義のために今」をテーマに基調講演が行われた。学生たちが立ち上げた自由・友愛・民主主義を掲げ活動するシールズの代表奥田愛基(あき)さんの勇気ある発言、行動について話された。時に感情と涙をこらえ一瞬言葉を詰まらせ、彼がキリスト教の学校で学んだことを称賛した。政治

活動を禁止されている弁護士会でさえパレードやスピチをする意味や、人の尊厳が脅かされている今の状況についても話された。

2日目は20の分科会に分かれ



韓国の脱原発運動参加者

仙台教区からの参加者もそれぞれの会で話を聞いた。

自死・海外援助・HIV/AIDS・部落差別やハンセン病への差別・憲法・原発・貧困・民族問題・沖縄・戦争・暴力など多岐に及んだ。

これだけの分科会にそれぞれ多くの参加があったのはカトリック正義と平和全国集会でなければ出来ない企画であったと思う。

今回参加した多くのカトリック信徒が社会問題に関心を持っていると実感した。

この協議会で活動している事をうれしく思い、同時に社会問題に関わり行動しつづける必要性を実感した。

最終日は、「現代世界憲章」発布50年を記念し、社会司教委員会主催のシンポジウムが開催された。勝谷司教、菊地司教、松浦司教それぞれが、社会と関わるために信仰に基づき行動

へりくだり

「ロボットは概念をもてない」と聞いた話を若い人たちにしたら、話が発展した。今や機能としては、人間の脳よりコンピューターの方が優れているではないか。将棋も人間の方が負けている。その話の延長で、人工脳の研究者はこんな話をしてくれた。「人間の側が勝とうとしないと機械は混乱してしまう」と。機械は、勝敗という機能以外の「新たな関係」は築けない。

その話を聞いて、「神のへりくだり」がとっさに浮かんだ。神が人となり無力な赤ん坊となってこの地上に降りた。イエスはひたすら神の前に下降する人間の生き方を説いた。しかし、イエスは負けることが救いといったのではない。「互いに仕え合う」新たな関係に神の国の到来を示したのである。

昨今の上昇志向、機能重視の科学の現実に、フランシスコ教皇は地球の悲鳴を聞いた。原発再稼働をする日本のへりくだりとは何か。広島、長崎の原爆、福島原発事故の犠牲は、福音としての「救い」を待っている。

地球を大事にする会 Sr. 佐藤 廣子



代々木公園でのサヨナラ原発集会

する必要性を訴えられた。社会司教委員会の幸田司教、勝谷司教、平賀司教らは今大会に限らず教会の外へ出て、すべての人が尊重される平和な世界の実現のため地元や国会前で声を上げてくださった。最後の派遣のミサでは「平和の大王」援助会 Sr. 山本作曲を全員で合唱した。この3日間を終え地上に平和を築くという困難な仕事に向かって参加者がそれぞれの場所での痛みを知る神と共に歩んでいく勇気をいただいた。そして企画に関わったすべての方に感謝いたします。

子どもの祈りの集いと 召命フェスティバル

10月12日(月)元寺小路教会にて10時から仙塩8教会の教会学校「子どもの祈りの集い」が行われました。いつもは子どもたちだけの参加ですが今回は司祭、ブラザー、シスターたちも30人参加しました。

それは、フランシスコ教皇が今年「奉獻生活の年」とお定めになり、カトリック教会にとって奉獻生活の大切さを子どもたちにもぜひ伝え知って欲しいと交流を持つためです。

第一部は大聖堂で「シスターの生活」「ブラザーについて」「司祭について」3名の代表者から簡単なお話があり、子どもたちもうなずきながら聞いていた事が印象的でした。

第二部は会議室に移動し、各修道会や宣



修道会・宣教会のブース

教会、司祭が準備した10

か所の各ブースを子どもたちが一枚の質問用紙を持ちラリー形式で回りました。

各ブースでは創立者や創立年、カリスマや会の特徴等の説明を聞き、

対話し交流を深めながら用紙の質問に答えを埋め込みました。子どもたちへの小さなプレゼントやゲームも各ブースで用意していました。

子どもたちは真剣にお話を聞き、楽しそうに笑いながら一緒にひと時を過ごしました。

第三部は大聖堂に戻り子どもから大人まで集まった参加者全員でロザリオの祈りを一環おさげいたしました。このお祈りを通して荘厳にそして温かく心が一つに結ばれた瞬間を観られたことは感動と喜びでした。このようなすばらしい交流の機会がまたありますように切に心の中で希望いたしました。(聖ワスラ修道会 遠藤トシ子)



あけの星会 秋の親睦会

米川・大籠教会・キリシタン殉教地巡礼

9月29日(火)、ロワゼール神父同行のもと、107名が参加。

米川教会では、高橋昌神父の出迎えを受け、2人の司祭の共同司式でミサがささげられ、大きな恵みを受けることができた。ミサ後、

米川教会の菅原さんから教会の歴史についての説明を聞いた。それによると、米川では、江戸時代120名のキリシタンが見せしめのため殺害され殉教したことが古文書から判明し、小林有方司教がこの地の布教に努力され、1955年311名が受洗した。しかし、現在では過疎化が進み、信徒も減少している。それでも、殉教者の強い信仰の精神は、私たちが受け継ぐ義務があると強調した。



米川教会でのミサ

教区管理のもと守る会が、教会の修理や周辺の環境整備を続けているとのこと。

次に、大籠キリシタン殉教公園を訪れ、この地での殉教の様子を20分の映像を視聴した。資料館では、布教から殉教に至るまでの出来事を再現したジオラマや、東北地方へのキリスト教の伝播、迫害、殉教の歴史、マリア観音などの遺物を見学した。

さらに元気で足に自信のある人たちは、大籠殉教記念クルス館まで足を運んだ。

今回の巡礼は、時間的にハードなスケジュールだったが、いかなる迫害にも屈しない信仰の道を守り、永遠の命を得た殉教者を尊び、

共に祈り、強い精神と信仰心に少しでも近づき、自分の信仰を見直すチャンスとなった。

(塩釜教会 佐山淑子)

その後、大籠教会に巡礼。殉教者のためにロザリオの祈りをささげた。その後「大籠教会を守る会事務局の岡田謙一氏(八木山教会)から守る会の活動についての話を聞いた。

同教会は、小教区としては閉鎖されたが、殉教地として巡礼者が訪れるため、建物は



大籠教会

第2回一本杉教会秋祭り

II 地域の皆さんと共にII

地域の皆さんをお招きして、共に楽しいひと時を過ごそうと、10月11日(日)正午から3時30分まで、「秋まつり」を開催した。

小教区教会は、地域に派遣されているが、教会が地域の方々に親しむもっていただけることがなければ、派遣された意味がない。

地域の方々にしてみれば、教会の建物があるが、いったい何をしているんだろう、うっかり足を踏み入れたら、無理やり信者にさせられるんじゃないか、など疑心暗鬼で遠目に見ているのではないだろうか。

そんな思いを払しょくして、教会に足を踏み入れて楽しんでいただこうと「秋祭り」を企画した。

3か月前から、準備を始め、町内会長さんたちの協力もいた



地域の方々が大勢参加

告知板

◆カテドラル・コンサート

日時：2015年11月8日(日)14:00 開演

場所：カトリック元寺小路教会大聖堂

入場料：2,000 円

ベルリン聖ヘドヴィツヒカテドラルのオルガニスト：フローリアン・ヴィルケスさんとドイツを拠点にヨーロッパ、日本で活躍中の歌手：安保ヨーネツ恵美さんをお招きしてコンサートを開催します。チケットは聖パウロ書院・元寺小路教会(オルガン管理委員会)まで

◆第26回 仙台ロゴス公開講演会

演題：「現代文化と神のみ心がクロスする家族——いのち・信仰と文化のゆりかご——」

講師：マンニ・ピエール・ジョルジョ神父

(ザビエル宣教会、大阪貝塚教会)

日時：2015年11月15日(日) 13:30~15:30

会場：カトリック北仙台教会 信徒館

問合せ：同教会事務所 TEL 022-234-8540

◆あけの星会「講演会」

日時：11月18日(水)10:00~14:30

場所：元寺小路教会大聖堂

テーマ：食の霊性—こころを育てる食—

講師：伊藤幸史神父(新潟教区 糸魚川教会)

参加費：500 円(昼食含む) 申し込みは、各教会あけの星役員へ参加費を添えて11月8日(日)まで。

だいて当日を迎えた。
あいにくの小雨にもかかわらず、地域の方々が、開始前から行列。



ロコモ体操

教会の外庭にテントを張り巡らし、焼きそば(仙台ダルク担当)、玉こんにゃく、フランクフルト等の食べ物、ビールやソフトドリンクを安価で提供した。「福島やさい畑」の柳沼さんの野菜販売、手作り品などのミニバザー、子どもコーナー、などが出店喫茶コーナーでは、コーヒーやお

後にはお楽しみ抽選会で盛り上がった。参加者は約300名。参加した近所の方は「楽しかった！来年もやんだスぺ」の声も。教会共同体の一致した働きで、福音を証しすることの出来たひと時となった。

菓子付の抹茶を提供した。余興として、「ワールド・ソウル・コーラス仙台」のパンチのきいた歌声。腕に覚えのある3人の手品ショー。メインのウルスラ学院英智中・高等学校の吹奏楽の演奏は、雨天のため中止となったが、みんなで老化防止の「ロコモ体操」。最

神父と修道士と宣教師たち

著者 大山 悟ほか共著／発行

女子パウロ会／定価1100円＋税

今年は「奉獻生活の年」。仙台教区の小教区でのミサの共同祈願には、必ず「この共同体から司祭、修道者をお召しくださいますように」と祈っています。しかし、残念ながら、教会の中であまりその話題は聞かえてきません。以前『シスターたち』という本をご紹介いたしました。が、その兄弟版ともいえる本書をご紹介いたします。

第1部は「キリストに従っていく道」ということでまとめられています。

1章は、「カトリック司祭について」、長年、司祭養成の任に当たられている大山悟神父が、司祭職について、主に、教区司祭について、書いておられます。「どんな人が司祭に選ばれるのか?」、「司祭養成の内



容、期間」についても、説明してくださっています。

2章は、「奉獻生活について」ということで、修道司祭についてまとめられています。この章の著者は、イエズス会の菅原裕二神父。

3章は、溝部脩司教による「自分の道をみつこう——望洋庵より」と題した、実践的青年指導法とも言える、司教様ご自身のなさってきたことを紹介してくださっています。

4章は、司祭の母の心情を吐露したものの。

そして、第2部は「日本の男子修道会・宣教会の紹介」となっています。日本にあるすべての男子修道会と宣教会が、それぞれ50音順に4ページで紹介されています。各会には、「創立の由来・使命と目的」と「おもな使徒職」の項目で紹介されているので、どういう精神でその会の司祭や修道士たちが生きておられるのかを知ることが出来ます。あの司祭の会の精神は?とか、関心のある修道会を知ることが出来るようになっていきます。

多くの青年が、本書に導かれて、自分の召命について考えるきっかけになれば素晴らしいことだと思います。

編集後記

早々とT-MのCMはクリスマスパーティー。個人的には、待降節中にクリスマス音楽はあまり聞きたいとは思いません。

今年もあと2か月となりました。

フランシスコ教皇様は、12月8日、(無原罪の聖マリアの祭日)から、来年の11月20日(王であるキリストの祭日)までを「いつくしみの

特別聖年」とすることを宣言されました。公布のこの特別聖年大勅書「イエス・キリスト、父のいつくしみの顔」から、教皇様の言葉を少しずつ掲載していきたいと思っています。黙想の糧としていただけたらと思います。

9月10月は、気候も良く各教会でバザーなど、いろいろな行事が持たれたことでしょう。教会が外に向かう良い機会ですネ。

(岩井)